NO.726 2022　　聖イグナチオ教会報

6月

カトリック麹町教会

MAGIS

イグナチオ年

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

教会テーマ　イエスがたたく希望の扉をひらいていこう　新たにつながるために　2030年に向けて一歩ずつ

神の導きに歩みを合わせて

主任司祭　サトルニノ・オチョア

帰ってまいりました。オチョア神父です。主任司祭として再び聖イグナチオ教会に派遣されました。皆さま、よろしくお願いいたします。

私は、日本のイエズス会の学校で子どもたちの教育に長く携わり、定年後見いだされ、1999年から2012年まで聖イグナチオ教会で助任司祭として皆さまとご一緒した後、これまで福岡修道院で教区の仕事と司牧をしてきました。年を重ね、このまま福岡にいると思っていたところ、主任司祭として聖イグナチオ教会に再び派遣される命を受け、驚きと主任司祭の務めが果たせるか・・・と気持ちがとても複雑です。

今回与えられた仕事と自分自身の持てる力との差が大きいと思う反面、聖イグナチオ教会に戻ってきたことに、「家」に帰ったような嬉しい気持ちも涌いています。

愛している聖イグナチオ教会の7つの場所

1. クリプタ

主聖堂の真下にはクリプタ（納骨堂）があります。現在の教会を建てた時に新設されましたが、ここには私のイエズス会士の恩人、友人、そして聖イグナチオ教会の歩みに尽力された方々が葬られています。

このような方々のおかげで聖イグナチオ教会は大きく発展し、私たちは今、この教会で祈りとともに様々な活動をすることができるのではないかと思います。

2. ザビエル聖堂

私の大好きな聖堂です。「光」と「水」の調和は、私たちの静かな祈りの時間を助けてくれます。周りの建物の影響で「光」の効果が少し減じたのが残念ですが、とても良い空間です。

3. マリア聖堂

司祭としてマリア聖堂には非常に特別な意味があります。それは結婚式の司式をする聖堂だからです。若者達が自分達2人の愛をおおやけにする新しい命の出発点に立ち会うのですから。

4. 鐘楼の十字架と鐘の音

この教会には毎日、鐘の音を聞ける恵みがあります。東日本大震災の時、十字架が折れて倒れた姿は今も忘れません。十字架は少し短くなりましたね。

5. 主聖堂

ここは個人的な祈りの場というよりは、神のための祈りの場です。皆で一緒に神を賛美する日が戻ることを待ちましょう。

6. マリア像

主聖堂の中、隠れた目立たないところにマリア様の御像があります。私たちと同じレベルに置かれている聖母は、冠無し、履物無し、本当に私たちのそばにお母さんがいるようです。あの真っ黒になったマリア様の手は「さすが我が家のお母さん!!」。

7. パイプオルガン

私にとって特別な意味があるパイプオルガン！

パイプオルガンの音色は本当に音を賛美の祈りに変えてくれるものです。ですから、このパイプオルガンの音を聞きながら、皆さま一緒に声を合わせて、神さまに賛美の歌を捧げましょう!!

但し、コロナ禍中は心の中で歌いましょう。

◇

私たちは今、コロナ禍による社会の変わり目にあります。これを天罰ではなく合わせる機会と捉えましょう。今までのやり方ではできないこともあるでしょう。柔軟な心で神さまの御摂理を識別して、新しい神の導きに歩みを合わせて行きましょう。

教会報 MAGIS 6月号

† 教会行事報告　P2-3
† 誌面歓送迎会　P4
† 初聖体おめでとう！　P5
† QR コードで教会ツアー　P5
† 特別寄稿「聖イグナチオと私」　P6

【6月の共同祈願】

世界には、
不安で苦しい生活をしている
子どもたちがいます。
それぞれの子どもたちが、
聖霊の導きによって、
豊かに成長してゆけますように。

担当：タラ友の会

【ミッション 2030 −前文−】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

教会行事　〜聖週間〜

新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中での3度目の聖週間。主聖堂に集まった150人とオンライン視聴の会衆が、今年も心を一つにして、受難の主日から復活の主日ミサまで祈りのときを過ごしました。

†受難の主日（枝の主日）ミサ

受難と復活を通して、救いの技を完成させるためにエルサレムに入城したイエスさまを記念するミサが、4月10日10時より英隆一朗主任司祭（当時＝以下同）司式のもとで行われました。信徒は枝の祝福と聖水を受け、英神父はフランシスコ教皇の人生を例にあげて「苦しみは復活の恵みに至るプロセス。イエスさまと心を合わせて未来への希望へ向かいましょう」と話されました。

受難の主日

†聖木曜日　主の晩餐のタベのミサ

4月14日19時から主聖堂で行われました。司式のレンゾ・デ・ルカ神父は「潜伏キリシタン時代の手紙に、初めての洗足式の際、信徒がなかなか納得しなかった様子が記されています。ミサで『私の肉』『私の血』というのも、普通は戸惑うものでしょう。あえてショッキングな印を記念として行うことをイエスは選ばれた。こうした記念を深める恵みを願いましょう」と話されました。コロナ禍のため、今年も洗足式は行われませんでした。

ミサ後の聖体安置式で、ご聖体はザビエル聖堂に移されました。

聖木曜日

†福音書による十字架の道行

4月15日15時から、主聖堂の祭壇と十二使徒の名が記された12本の柱を「留」に見立て、福音書による十字架の道行が行われました。

英神父を中心に、先唱グループ、聖堂係、信徒評議員、外国語圏から15名が参加し、十字架とろうそくを持って行いました。

福音書が朗読され第14留（キリストの復活）まで、イエスさまのご受難を回想しつつ留を移動して祈りを捧げました。

参加者は「十字架の道行が、身近な信心の一つになった」と話されていました。

十字架の道行き

†聖金曜日　主の受難の祭儀

4月15日19時から主聖堂で、グエン・タン・ニャー神父の司式により執り行われました。

ニャー神父は「イエスの受難の物語は、イエスの弟子である私たちにヒントを与えてくれます。まず、イエスが私たち人間を愛したということ。もう一つは、イエスの死に対する人々の対応です。ユダのようにイエス

聖金曜日

を裏切ったり、ペトロのように否定したり、ピラトのように関係ないという態度をとったことはなかったでしょうか。イエスの愛を理解し、イエスの死に対して正しく反応することができるよう祈りましょう」と話され、回心を促されました。

✝聖土曜日
復活の聖なる徹夜祭

4月16日19時から四部構成で行われました。

①光の祭儀

祭壇前で新しい火と復活のろうそくが祝福され、主聖堂は復活したキリストの光と聖歌で満たされました。

②み言葉の祭儀

福音説教の中で英神父は「今年の四旬節はコロナ禍に加えてロシア軍のウクライナ侵攻もあり、重苦しい中で過ごしました」と話され、次のように語りかけられました。

「私の好きな言葉に『それでも喜び、希望、感謝』があります。どのような困難にも復活のイエスさまの力が働き、前向きな力が与えられると思います。これから洗礼を受ける方も、すでに受洗された方も、十字架や死を超える復活の力を信じ、『喜び・希望・感謝』とともに各々の人生を歩んで行けるように皆で祈りをささげたいです」

③洗礼の祭儀

諸聖人の取り次ぎを求める祈りと水の祝福の後、受洗者19名と代父母が祭壇の前に進み出て、悪霊の拒否と信仰宣言、洗礼式（水の洗礼と洗礼名の授与）、聖香油の塗油、ろうそくの授与、白衣の授与が行われました。続いて洗礼の約束の更新がなされ、レンゾ神父、英神父と山内保憲神父から会衆全体に聖水がふり注がれ、共同祈願が唱えられました。

聖土曜日

④感謝の祭儀（奉納の祭儀）

聖体拝領の後、高らかなトランペットの音とともに厳かに終了しました。

✝復活の主日（日中のミサ）

4月17日10時から主聖堂で行われました。

司式の英神父はミサ説教で「復活したイエスさまは前もって信じた者の前にだけ姿を現されました。彼らは信仰によってそれを受け止め、復活の恵みを人々に伝えていく使命を受けて全世界に派遣されました。

私たちもいただいた信仰をもってイエスさまの復活の恵みを受け、その喜びを少しでも周りの人に分かち合っていけたらいいのではないかと思います」と話されました。

そして「すべての信仰者は復活した主の恵みを受けて与えられた使命を果たして行くように心に刻みましょう。神さまからの指令は常にサプライズですが、派遣された場所でいつでも最善を尽くして、忠実に誠実に復活の恵みを分かち合っていけるように、互いのために祈り合いたいです」と締めくくられました。

続く聖体奉仕者任命式では、新任の聖体奉仕者に英神父から任命書が授与されました。

復活の主日（日中のミサ）

✝洗礼式

復活徹夜祭に続き、復活の主日15時からのミサでも、洗礼式が執り行われました。

説教の中で、司式のハビエル・ガラルダ神父は「信仰生活を富士登山に例えると入門式は登山口まで行くこと。志願式まで行くと5合目で、その後に受洗。さらに、頂上まで歩いていく信仰の道のりは続きます。頂上を目指すことに疲れて帰ったり、脇道にそれたり、向上心に乏しくマンネリ化してしまったり…。また登る意味を見いだせなくなるなどの誘惑に負けずに、イエス・キリストを心の友として、カトリックの友人と励まし合って、着々と登り続けて行きましょう。皆さん、おめでとうございます」と話されました。

この日の受洗者は46名で、英神父、ガラルダ神父、岩島忠彦神父と酒井陽介神父から聖水がふり注がれ、聖歌「マラナタ」が流れる中、今年もつつがなく聖週間を記念し、祝うことができました。

◇

※復活の主日15時からの洗礼式ミサ以外はYouTube配信中です。

復活の主日　洗礼式

英神父様　ありがとうございました

送別会

復活の主日のミサ後に中庭に集まり、英語圏の子どもたちやベトナム圏の方々からのお礼の言葉と花束がプレゼントされ、記念撮影をするなど、楽しいひとときをすごしました。

復活の主日ミサ

最後の司式となった主日のミサでは、信徒からお礼の言葉と花束、プレゼントのカズラなどが贈呈されました。

信徒から…

祈りの花束（アヴェ・マリアの祈り2万8,406回など）を贈りました。

誌面歓送迎会

聖イグナチオ教会の主任司祭が変わりました

オチョア神父様　よろしくお願いします

初聖体

柴田神父と共同司式で行われた初聖体のミサが、主任司祭としての最初の司式となりました。

復活節第3主日ミサ（改宗式）

冒頭のご挨拶では、11 年ぶりに聖イグナチオ教会に戻ってこられた…と、懐かしさに声を詰まらせられました。

歓迎セレモニー

５月７日（土）12 時の高齢者ミサ後、サプライズで信徒評議員による歓迎セレモニーがあり、音楽好きな神父様へ声楽家による歌のプレゼントがありました。

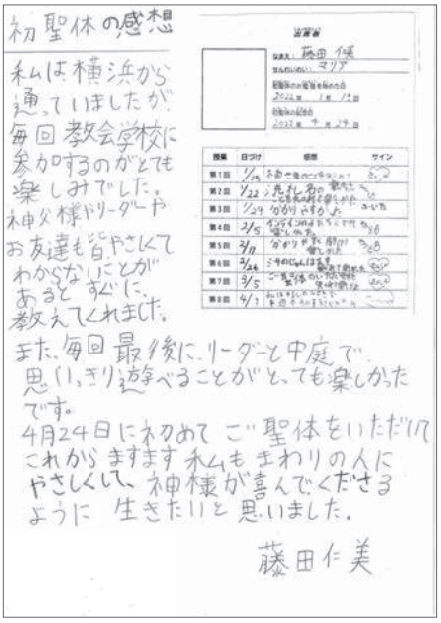
初聖体

初めてのご聖体、いつもイエスさまとともに

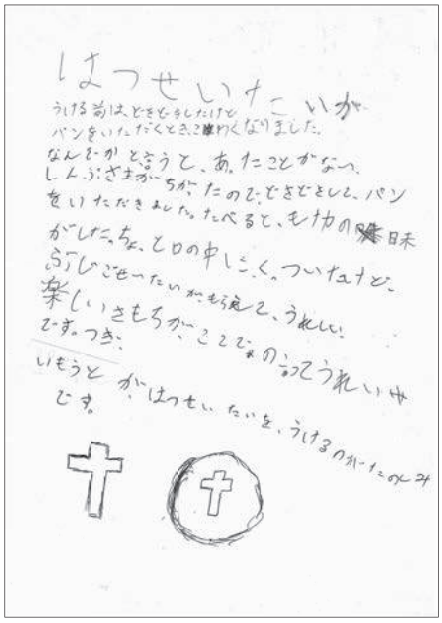
4月24日(日)10時より、柴田潔神父、サトルニノ・オチョア神父共同司式のもとで初聖体のミサが行われました。今年も無事、35名もの子どもたちが初聖体のお恵みに与れたことを感謝いたします。今年は、授業を対面とオンラインのハイブリッドで行ったり、子どもたちが初めての聖体拝領を一人ひとり写真チームの方に撮っていただいたりと、初の試みが多くチャレンジングな面も多々ありましたが、子どもたちや保護者の皆様にとって少しでもよい式となっていたら幸いです。

今年度も初聖体を支えてくださった皆様、特に今年は新たにレンタル衣装を作ってくださったヨゼフ商会様、衣装や記念品の手配をしてくださった父母会の皆様、そして保護者向けの勉強会を開いてくださった柴田神父様、本当にありがとうございました。

（日曜学校リーダー・初聖体担当　寺尾結衣）



▲土曜学校　藤田仁美さんより



▲日曜学校　上田楓さんより

●●●各活動グループから●●●

QRコード読み込み　スマホを片手に

教会ツアーのはじまりだ♪

国際青年会　湯澤　生水（いくみ）

教会各所に設置されたQRコード。スマートフォンで読み取られましたか？ 教会の素敵な写真がふんだんに盛り込まれた『地球の歩き方』のような教会案内が、日本語・英語・ベトナム語・スペイン語の4言語でガイドされています。

■五輪のおもてなしを想定

元々、QRコードの展示は五輪期間中、訪日外国人&地方からのお客様向けのおもてなし「展示・映像・サービス」の三要素のうちの一つでした。そう…コロナさえなければ！

コロナ禍にあっても、私たちはオンラインで編集作業を続けました。執筆・写真・翻訳・チェックなど、4言語コミュニティ&複数の活動グループから総勢30名以上の協働があって実現しました。感謝！

■会社員や学生に届け！

ここ四谷は、会社員と学生の街。勤務や授業の合間の休み時間での憩いのひとときに、教会を初訪問した場面を想定して製作にあたりました。

その結果、誰もが「知識・好奇心」を刺激される魅力的な内容に仕上がりました。

ここにも！　あそこにも！

QRコードを見つけてみよう！

教会のいろいろなところに、上の写真のような形で、案内板が設置されています。スマートフォンのカメラを起動するなどしてQRコードを読み取ってみてください。知らなかった教会の“トリビア”に出会えるかも…！

IgnatiuSoo
イグナチオ年

〈特別寄稿〉聖イグナチオと私

聖イグナチオを演じた、あの時から…

イエズス会日本管区イグナチオ年コーディネーター　山内保憲

私が六甲学院に在学中、聖イグナチオ生誕500年記念か何かで、今年と同じように「イグナチオ年」が祝われたことを覚えている。司祭になりたての若い李聖一神父が、ヘルマン・ホイヴェルス神父の「パリの七人の大学生」という脚本を持ってきて、「これで劇をせえ」と言ってきたのだ。聖イグナチオがパリで同志を集め、イエズス会を創立していく物語である。演劇としては何の面白みもないものだった。私たちは演劇の経験はなかったが、試行錯誤して劇を準備し、全校生の前で発表することになった。

▲在りし日のBr.エルナンデス(左)とBr.マルコと筆者

本番に弱い私(昔から試験、試合など全ての「本番」に弱い。今でもミサの前に必ずお腹の調子が悪くなる)は、やはり前日に下痢をし、点滴を打って当日を迎えた。いつもは体調不良が原因で、すべて失敗に終わるのだが、この演劇に関しては体調の悪さが幸いした。私は聖イグナチオの役だったのである。やや猫背で足を引きずりながらの演技は、砲弾で怪我をした聖イグナチオのようで、迫真の演技だと褒められたのだ。実は単にお腹の調子が悪かっただけなのだが。

運動神経抜群で秀才の親友が聖フランシスコ・ザビエルを演じた。競技で優勝し、意気揚々と学生寮に戻ってきた聖ザビエルに、「たとえ全世界を手に入れたとしても、自分の命を失うのであれば、いったい何の意味があるのかね?」と聖イグナチオを演じる私は尋ねた。意識が朦朧(もうろう)となりながら演じている私は、その親友が本当に聖ザビエルのように見えていたし、自分のセリフが聖イグナチオの言葉なのか、自分の言葉なのかはっきりしなくなっていた。

それから10年ほどして、私は広島の修練院で誓願をたてた。誓願文を読みながら気づいたのだが、私は誓願文をほぼ暗記していた。10年前の演劇でセリフとして覚えていたのだ。舞台の上とはいえ、イエズス会の正式な誓願文を少年たちに唱えさせていたのだからイエズス会教育とは恐ろしい。あの時から聖イグナチオが私に影響を与え続けているように感じる。どうも聖イグナチオには、人に自分と同じ体験を経験させる力があるようだ。彼の「霊操」を体験した人は、やはり彼に導かれて祈りの中でイエス・キリストを体験する。情熱的で激しい性格の聖イグナチオだが、仲間たちが派遣されて行った時には、それぞれがそれぞれの場所で識別していくことに委ねていった。それは、「霊操」を体験した仲間たちは、自分と同じように識別していくことができるはずだという信頼に他ならない。

聖イグナチオから見れば、21世紀のイエズス会員などは、とても仲間とは認めることができないかもしれない。しかし、それでも聖イグナチオは、21世紀の世界に派遣されている私たちの識別に、全てを任せるのではないかとも感じる。この疫病や戦争で不安の中にある現代に、聖イグナチオなら何をするだろうか。聖イグナチオの、そしてキリストの眼差しで今を見つめていきたいと思う。

Family of St.Ignatius

～英語圏から～

「私の子羊を飼いなさい!」パートⅠ

6月と7月の2カ月に渡り、子どもたちのための活動をご紹介します。

今月は「日曜学校」です。日曜学校はジョン・デ・ブリット・イングリッシュセンター管理のもと、経験豊かなマルチリンガルのカテキスタと保護者により運営されています。カテキスタは、子どもたちのニーズやレベルに合わせて講座計画を立て、チーム別に、月2回教えています。第1日曜日は家庭のミサがあり、大きい子どもたちは、侍者や先唱朗読者として奉仕。保護者達も協力します。

お休みした時は、保護者が責任を持って補習等、時間をかけて援助します。また、イースターパーティーで子どもたちと一緒にゲームを楽しんだり、初聖体の準備も念入りに行いました。リビング・ロザリーの時には、各家族が玄義をリードしました。

(※7月号に続く)

● 5 月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

（5 月 12 日開催）

1．承認事項
ミッション 2030小委員会より答申のあった従来の組織の解散、および宣教司牧評議会のもとで引きつづきミッション 2030を推進していく新組織の準備を進めることが承認されました。

2．報告事項
・年次活動報告会を 6 月 11 日（土）15:00 よりヨセフホールで開催いたします。
・堅信式は菊地功大司教様の司式にて 6 月 26 日（日）15:00 より行われます。残念ながらコロナ感染防止対策により今年度もお祝い会は行いません。

シノドス（ともに歩む）に向け　みんなでつどう

● 2022 年度　年次活動報告会●

日　　時：6 月 11 日（土）15：00 ～ 16：30
場　　所：ヨセフホール
定　　員：50 名（先着順）
申込期間：5 月 25 日（水）～ 6 月 6 日（月）
申込方法：教会ホームページよりインターネットで

〈プログラム〉
＊オチョア主任司祭着任のご挨拶と講話
テーマ：「シノドスってどんなこと？」
＊助任司祭方のご挨拶
＊教会活動の報告
2021 年度活動報告・2022 年度活動計画・会計報告

・YouTube ライブ配信および一部期限付き閲覧あり。
・事前に質問を受付けます。教会事務室に所定用紙記入にてご提出ください。
・私たちの教会について知る機会です。是非ご参加ください。

● 5 月のお知らせ（5 月 7 日要旨）●

新型コロナウイルス感染症について、聖イグナチオ教会では現在の感染症対策を継続します。

・ミサへの参加はグループ申込、ネット個人申込になります。
・所属信徒が多いので、過去の指針に沿ってミサ申込は個人、グループともに月 1 ～ 2 回でお願いします。

●聖体奉仕者に任命書●

東京大司教から、今年新たに当教会聖体奉仕者に任命され、任命書を授与された方は、以下の通りです。

早川純子、渡辺多嘉子、関真澄、栗栖徳雄、長谷部邦夫、井上喜久江、井上紀子、内田和子、永瀬英一、Br. 沖下昌寛　（申請順、敬称略）

●財務報告●

・「四旬節愛の献金」709,392 円はカリタス・ジャパンを通して日本・海外の多くの人々のいのちを守るために使われます。

・ 4 月 15 日（聖金曜日）の聖地のための献金 122,625 円は、ローマ教皇庁に送られ、聖地の巡礼所や聖堂の維持管理などに使われます。

6 月の典礼と行事

1　（水）	堅信準備会（平日①）　18：45　ヨセフホール
3　（金）　初金曜日	
5　（日）　聖霊降臨の主日	堅信準備会②　11：15　ヨセフホール　**教区合同堅信式**
6　（月）	**献堂記念日（23 周年）**
8　（水）	堅信準備会（平日②）　18：45　ヨセフホール
11　（土）	**年次活動報告会　15：00　ヨセフホール**
12　（日）　三位一体の主日	堅信準備会③　11：15　ヨセフホール
15　（水）	堅信準備会（平日③）　18：45　ヨセフホール
18　（土）	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座　15：30
19　（日）　キリストの聖体の祭日	堅信準備会④　11：15　ヨセフホール
22　（水）	堅信準備会（平日④）　18：45　ヨセフホール
23　（木）　洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日	
24　（金）　イエスのみ心の祭日	
26　（日）　年間第 13 主日	**堅信式　15：30　主聖堂**　**聖ペトロ使途座への献金**
29　（水）　聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

●幼児洗礼式●

7 歳未満のお子様を対象とした幼児洗礼式を行います。事前の準備会があります。詳細は教会事務室にお聞きください。

7 月 17 日（日）10 時ミサにて
10 月 23 日（日）10 時ミサにて

主任司祭：サトルニノ・オチョア
助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
（セントロ・ロヨラ）
フロール・フロレーセ
（ジョン・デ・プリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass
【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）
【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）
【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）
【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。